

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2872100397		
法人名	社会福祉法人 福竹会		
事業所名	社会福祉法人 福竹会 グループホーム鹿島の郷		
所在地	兵庫県高砂市阿弥陀町南池94-1 (電話)079-446-1765		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年12月8日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】 (20年11月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤6人, 非常勤13人, 常勤換算	17.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50000~54000 円	その他の経費(月額)	27000~29000 円	
敷 金	有(200000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (11月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	6	要介護2	7			
要介護3	2	要介護4	1			
要介護5	2	要支援2				
年齢	平均	81.6 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三木医院・高砂西部病院・佐野栄作歯科医院
---------	----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑が見渡せる自然豊かなホームは「歩んで来られた人生を大切に、輝き続ける生活を応援します。」を運営理念に、落ち着いた雰囲気の中でご利用者本位の暮らしが営まれている。昨年、和風の建物で1ユニットを増設し重度化のご利用者への積極的な運営に取り組まれている。地域の理解は次第に深まってきており、幼稚園・保育園との交流・中学生のトライやるウィークや高校の介護実習の受け入れ等、地域との交流も、積極的に行なっている。地元の人との交流も日常的な散歩時の挨拶・買い物等馴染みの関係が出来ている。ホームはご利用者と職員が共に生活する場として、ご利用者の自主性を損なわないように、見守りながら支援することを大切に考えており、生活行動は、利用者一人ひとりの状態・能力・希望・に合わせたペースで暮らせるよう支援している。ご利用者の重度化についても職員がホームの方針を理解し支援を行えるよう教育・指導に努め、ご本人・ご家族が安心してサービスが受けられるよう、ホーム主治医・訪問看護師派遣も、24時間オンコール可能になっており、緊急体制・夜間対応も整備し継続した支援に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	評価結果を踏まえ積極的な改善を図り、サービスの質向上に向け活用されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価作成については、日々の業務を振り返る機会ととらえ、各ユニットごとに職員が実施した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	初年度の運営推進会議は役所職員・役員等に呼びかけ積極的に実施したが、今年度は諸事情により開催に至らなかった。今後は定期的に運営推進会議を開催し、情報交換をおこなない、意見・助言を活かし、サービスの向上への取り組みを計画している。市町村とは運営に関する事項・事例の相談等、連携を密に取っており、キャラバンメイトにも参加している。社会福祉協議会が中心になり施設がサポートすることで認知症サポーター養成講座を開催できるよう協議し進めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	入居前に要望・苦情に関する取り組みは十分説明している。現在まで大きな苦情はない。要望には誠意を持ち対応し、ご利用者・ご家族との信頼関係を大切にしている。利用者の意思を理解しようと努めている姿勢がうかがえる。今後の方針として家族会の開催・家族アンケートの実施に取り組むための準備を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地域性もあり地域団体への参加にまでは至っていないが、地域の理解は次第に深まってきており、幼稚園・保育園との交流・中学生のトライやるウィークや高校の介護実習の受け入れ等、積極的に行なっている。地元の人との交流も日常的な散歩時の挨拶・買い物等馴染みの関係が出来ている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解し、地域住民・家族と共に、ご利用者を支えることを基本とした独自の理念を掲げ、ご利用者の日々の生活を支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の基本を理解・共有し、日々のケアの内容を振り返ると共に理念の実践に向け取り組んでいる。また、勉強会・会議等に於いても理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域性もあり地域団体への参加にまでは至っていないが、地域の理解は次第に深まってきており、幼稚園・保育園との交流・中学生のトライやるウィークや高校の介護実習の受け入れ等、積極的に行なっている。地元の人との交流も日常的な散歩時の挨拶・買い物等馴染みの関係が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を踏まえ積極的な改善を図り、サービスの質向上に向け活用されている。自己評価作成については、日々の業務を振り返る機会ととらえ、各ユニットごとに職員が実施した。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>初年度の運営推進会議は役所職員・役員等に呼びかけ積極的に実施したが、今年度は諸事情により開催に至らなかった。今後は定期的に運営推進会議を開催し、情報交換をおこない、意見・助言を活かし、サービスの向上への取り組みを計画している。</p>		<p>運営推進会議において事業所の取り組み内容の説明・課題を話し合い、運営推進委員の意見を参考に、更なる運営の充実に反映されることを期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村とは運営に関する事項・事例の相談等、連携を密に取っており、キャラバンメイトにも参加している。社会福祉協議会が中心になり施設がサポートすることで認知症サポーター養成講座を開催できるよう協議し進めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご利用者一人ひとりの生活状況・身体状況・行事を手書きして、写真同封で毎月「生活便り」を送付している。また、随時に電話での報告は行っており、連絡を密にする姿勢がうかがえる。面会では話す機会を設けて業務に対する意見を得られるよう努めている。。行事の写真は、家族が面会時に閲覧できるようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居前に要望・苦情に関する取り組みは十分説明している。現在まで大きな苦情はない。要望には誠意を持ち対応し、ご利用者・ご家族との信頼関係を大切にしている。利用者の意思を理解しようと努めている姿勢がうかがえる。今後の方針として家族会の開催・家族アンケートの実施に取り組むための準備を整えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>過去に職員の異動は本人の事情で、一度だけ行っているが、ご利用者との馴染みの関係の重要性を考え事業所の都合による異動は行っていない。職員配置には余裕をもって対処しており、職員間のフォローについても配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修・施設内研修・勉強等、年間の研修計画は詳細に作られており、計画的に研修を実施し、研修報告は資料と共に回覧し体系的な取り組みが行われている。研修参加のために特別休暇制度を設け職員の質の向上を支援している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者間の情報交換会、外部講師による研修会、職員対象の勉強会等近隣の4市町の連絡協議会主催で積極的に実施している。事業所職員も研修委員として協力をしている。懇親会は当ホームが毎回会場提供して交流を図っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前のご本人・ご家族の状況を把握し、馴染みの関係作りが出来るよう柔軟な対応に心がけている。慣れていただくことに重きを置いており、利用前の自宅訪問・体験利用等利用者本位の受け入れ体制を整えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームはご利用者と職員が共に生活する場として、職員はご利用者の自主性を損なわないように、見守りながら支援することを大切に考えている。職員もご利用者から学び取ろうとする姿勢がうかがえ、一方的な介護にならないよう注意している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントに終わらず、日々の生活の中での会話や、家族からの聞き取りを常に行うと共に、ご利用者の意向・希望の把握に努め、また本人の言葉に表されない気持ちを理解できるよう努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は必要に応じて関係者の協力を得ての作成している。日常にご本人・ご家族の意見を収集し、適切な支援が行える個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、ケア会議において担当者が個々の介護計画の報告を行い、家族の意見、希望を取り入れ、定期的な介護計画の修正を行い職員全体が共有し、支援の充実を図っている。		高齢者の状態は変化しやすいため、安定しているご利用者についても月に1回程度の予防的な視点からの検討が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の希望による受診同行・外出支援・外泊・一時帰宅の送迎等柔軟な支援が行われている。病院からの受け入れも即対応できる体制を整えている。また、医療連携体制も整い多機能性を活かした支援が行われている。今後は併設の通所介護を利用することによる共用型の通所介護の計画もある。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の選択はご本人、ご家族の希望を優先し入居後も希望する医療機関・医師に受診できるよう支援している。非常勤看護職員を配置し、定期的に健康管理を行っている		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応について家族に詳しい説明と共に、家族の意向を確認し同意を得ている。職員にはホームの方針を理解し支援を行えるよう教育・指導に努めている。胃瘻造設後のご利用者のケアについても看護師の指導の下支援の継続を行っている。一人ひとりの状況に応じて「できること・できないこと」を明確にし支援方法を決定している。ご本人・ご家族が安心してサービスが受けられるよう、ホーム主治医・訪問看護師派遣も、24時間オンコール可能になっており、緊急体制・夜間対応も整備し、継続した支援に取り組んでいる。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>管理者・職員は親しみ易い言葉で利用者に合わせた言葉かけを行っている。管理者は日々関わる中で気がついた時に注意を促し、事あるごとにご利用者への尊厳・プライバシーに配慮したかわりが出来るように指導している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の決められたスケジュールは作らず利用者一人ひとりの状態・能力・希望に合わせた生活が出来るように支援している。生活行動は、利用者のペースにあわせた暮らしが出来るよう支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力を見極め調理・配膳など役割分担し、職員と一緒にいき、楽しみや喜びとなり自信につながるよう支援している。また、重度化したご利用者のために食卓を移動し調理の様子が見えるように配慮されている。ご利用者と職員が食卓を囲み、雑談しながら食事の時間を楽しく過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している	可能な限り利用者の希望の添って自由に入浴できるように、職員のシフトの調整を行っている。プライバシー保護についても考慮する姿勢がうかがえる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の気持ちや思いを大切に考え、利用者一人ひとりのできることを把握し職員と共に一緒にいき、楽しく過ごせるよう支援している。外出行事においても自立支援を大事に考えており、個々の希望に合うような場所へ出かけるための計画を立てて実践している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態・希望に応じて外出を支援する体制を整えている。重度の方であっても遠近を問わず外出を促しており、日常的に車椅子での散歩も実施している。外出を日常活動として捉え、実施している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は施錠の弊害を理解し、日中は開錠しており、外出も自由にできる。居室からベランダへも行き来でき、できるかぎり自由に行動してもらえるよう配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・災害についての計画やマニュアルは作成されており対策は充分考慮されている。非常時の備蓄の備えはあるが、今後近隣の支援を得られるよう目標を立て、可能な範囲で協力を得られる体制を構築しようと努めている。		夜間の火災及び災害時については職員のみでの避難誘導が困難な場合も考えられる。運営推進会議等で地域の住民と話し合いの場を持ち、よりよい支援体制の検討を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量は毎日チェックし記録している。毎月体重を測定しており健康管理に役立てている。日常的な観察により、各利用者の嗜好や嚥下状態、身体状況により、食事形態を調整して提供している。		認知症で自己管理できない入居者についての対応に期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から田畑が見渡せ、自然光が差し込む共用空間は明るく、臭気もなく清潔感がある。壁面の装飾も過度にならず、和室の生け花が家庭的な雰囲気が感じられる。空間に椅子を置き、気分に応じてくつろげるような工夫が見られる。利用者と職員の会話や食事作りの匂いが生活感を感じさせる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に添えるよう床材を替えたり、自宅で使用していた家財を持ち込んでいただくよう努めている。仏壇や位牌を居室に置き家庭的な雰囲気が感じられる。		

は、重点項目。